

ベクルリーを投与される 患者さん・そのご家族の方へ

監修：長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科
呼吸器内科学分野(第二内科)教授
迎 寛 先生

参考情報のご案内

厚生労働省Webサイト

新型コロナウイルスに関するQ&A

●一般の方向け

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/dengue_fever_qa_00001.html

●労働者の方向け

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/dengue_fever_qa_00018.html

●新型コロナウイルスの感染が疑われる人がいる場合の家庭内での注意事項

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/newpage_00009.html

患者様向けWebサイト

veklury-pt.jp



病院名

問い合わせ先：

ギリアド・サイエンシズ株式会社

〒100-6616 東京都千代田区丸の内1-9-2 クラントウキョウサウスタワー

<https://www.gilead.co.jp/>

VKY21DS0044PA
2021年6月作成

はじめに

新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の感染は、2019年12月に報告されて以来、世界に広がり、現在でも流行は収まっていません。

わが国でも、多くの感染者が報告されています。新型コロナウイルスに感染しても、多くの場合は軽症で済みます。しかし一部の患者さんでは、入院や人工呼吸管理が必要になります。

ベクルリーは、新型コロナウイルスによる感染症の患者さんのなかでも、肺炎を有する方に使われる薬です。この冊子では、ベクルリーを投与される患者さんご家族に向けて、ベクルリーのはたらきや投与方法・期間などについて説明しています。投与にあたって特に注意が必要な患者さんや副作用についても記載されていますので、お読みいただき、気になることがある場合には医師や看護師、薬剤師に伝えるようにしてください。

ベクルリーのはたらき P4

ベクルリーを投与する対象となる患者さん P6

ベクルリーの投与方法 P7

ベクルリーの投与期間 P8

ベクルリーの投与時に特に注意が必要な患者さん P10

ベクルリーの副作用 P12

ベクルリー投与中の注意事項 P13

ベクルリーのはたらき

新型コロナウイルスの増殖を抑制

ベクルリーは、抗ウイルス剤という種類の薬で、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)が体内で増えるのを抑えます。ベクルリーは、新型コロナウイルスが増殖する過程を邪魔することで、抗ウイルス作用を發揮します。

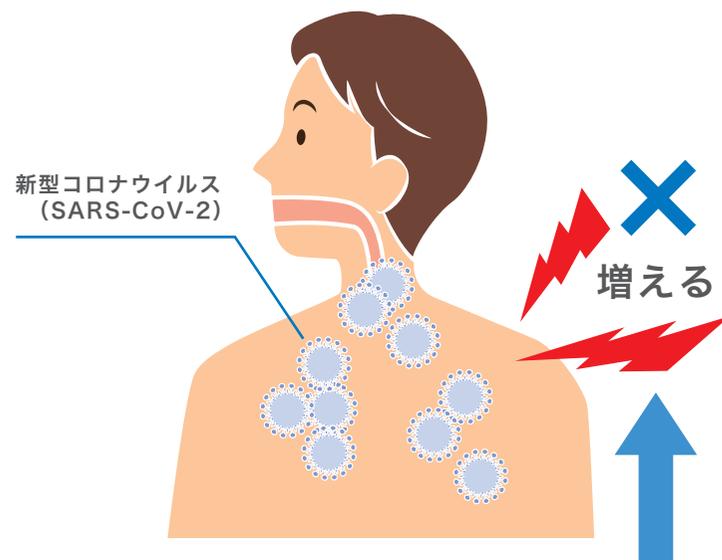


SARS-CoV-2とCOVID-19の違い

SARS-CoV-2 (Severe Acute Respiratory Syndrome Coronavirus 2) は、新型コロナウイルス自体を指します。では、よく耳にするCOVID-19とは何でしょうか。COVID-19は、Coronavirus disease 2019のことで、新型コロナウイルスによって引き起こされた感染症を指します。つまり、SARS-CoV-2はウイルス、COVID-19は病気の呼び方です。

ベクルリーのはたらき

新型コロナウイルスは、気道(呼吸時の空気の通り道)で増えると考えられています¹⁾。



ベクルリーは、新型コロナウイルスが増える際の複製という過程で必要な酵素のはたらきを邪魔して、ウイルスの増殖を抑えます。



ベクルリー

〈参考資料〉1)：厚生労働省 診療の手引き検討委員会「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)診療の手引き・第5版：2021」

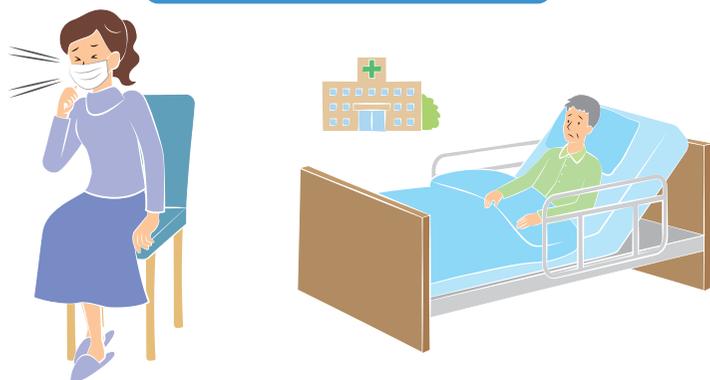
ベクルリーを投与する 対象となる患者さん

新型コロナウイルスによる感染症で 肺炎を有する患者さん

ベクルリーは、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)による感染症で肺炎を有する患者さんに投与されます。

ベクルリーの投与対象となる患者さん

肺炎を有する患者さんが対象



ベクルリーの投与方法

1日1回、点滴で注射

ベクルリーは、通常、1日1回、点滴で注射する薬です。投与量や投与回数、投与期間は、患者さんの症状などに合わせて医師が決めます。

通常の投与量と投与回数は以下のとおりです。

〈投与期間について→P8～9〉

ベクルリーの通常の投与量、投与回数

	投与量	点滴の回数
成人	初日:200mg 2日目以降:100mg	1日1回
小児 (体重40kg以上)		
小児 (体重3.5kg以上40kg未満)	初日:5mg/kg 2日目以降:2.5mg/kg	

ベクルリーの投与期間

投与期間の目安は、

▶5日目まで ▶症状の改善が認められない場合:10日目まで

ベクルリーの投与期間の目安は、患者さんの状態によって異なります。

目安としては、5日目までの投与となりますが、症状の改善が認められない場合には10日目まで投与することができます。

ベクルリーの投与期間(目安)



※: 成人および体重40kg以上の小児への1日あたりのベクルリー投与量です。体重3.5kg以上40kg未満の小児への1日あたりの投与量は、1日目5mg/kg、2日目以降2.5mg/kgです。

ベクルリーの投与時に 特に注意が必要な患者さん

以下の患者さんは特に注意が必要なため、ベクルリーの投与は慎重に検討されます。

腎臓の機能があまりよくない方

ベクルリーの添加剤によって腎機能障害が悪化するおそれがあります。

腎機能障害の程度が重い患者さんでは、ベクルリーの投与は推奨されません。治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与が考慮されます。



肝臓の機能があまりよくない方

血液検査のALTという項目が基準範囲上限の5倍以上の患者さんでは、ベクルリーを投与しないことが望ましいとされています。



妊婦、妊娠している可能性のある方

治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与されます。



授乳中の方

治療上の有益性と母乳栄養の有益性を考慮し、授乳の継続または中止が検討されます。



小児

治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与されます。ベクルリーの添加物は腎臓に悪影響を及ぼすおそれがあり、腎臓が発育段階にある2歳未満の小児に対する影響は不明です。



ご高齢の方

患者さんの状態を観察しながら慎重に投与されます。



ベクルリーの副作用

現れる可能性のある重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状は以下のとおりです。

重大な副作用	主な自覚症状	
	部位	自覚症状
肝機能障害	全身	疲れやすい、体がだるい、力が入らない
	口や喉	吐き気
	腹部	食欲不振
過敏症 (インフュージョンリアクション、アナフィラキシーを含む)	全身	寒気、ふらつき、汗をかく、発熱
	頭部	意識の低下、意識の消失、めまい
	顔面	舌・まぶたのはれ
	口や喉	喉などのかゆみ、嘔吐、咳、口唇周囲のはれ
	皮膚	全身のかゆみ、かゆみ、じんま疹、発疹
	胸部	息苦しい、呼吸困難、動悸

主な副作用として悪心、肝機能検査値の変化（ALT増加、AST増加、トランスアミナーゼ上昇）が現れることがあります（発現頻度1%以上3%未満）。

このような症状が現れた場合には、
すぐに医師または看護師、薬剤師に伝えてください。

ベクルリー 投与中の注意事項

本剤の投与前や投与中に、医師は以下のようなことを行います。

症状や臨床検査値のモニタリング

本剤を投与する場合には、症状や臨床検査値^{*}について、医師は適切なモニタリングを行いながら慎重に患者さんを観察します。その結果、副作用が認められた場合には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断された場合にのみ投与が継続されます。

*白血球数、白血球分画、ヘモグロビン、ヘマトクリット、血小板数、クレアチニン、グルコース、総ビリルビン、AST、ALT、ALP、プロトロンビン時間など

腎機能検査、肝機能検査

腎機能障害や肝機能障害が現れることがあるので、本剤の投与前および投与中に、医師が必要と判断した場合には腎機能検査や肝機能検査を行います。

患者さんの状態の十分な観察

本剤に対する過敏症が現れることがあるので、患者さんの状態を十分に観察して適切な処置を行えるようにします。

気になる症状が現れた場合には、
すぐに医師または看護師、薬剤師に伝えてください。

